

# 家事の軽減 プラン化

## 一流を目指す

4年目を迎えたHBMS

②

食品スーパー「フレス」前にあった魚が消え、**「夕」**(本社・西区)販売ソコンに変わった。転職部の植野文詞さん(34)は、2017年4月、H

BMS(県立広島大学 店舗にいた時は気付か  
院経営管理研究科)2期 なかったが、仕事の内容  
生として入学した。社内 を評価する「チェックシ  
に大学院進学をサポート ート」が、どの部門でも  
する制度があり、制度を 同じことに違和感があっ  
作った先輩から勧められ た。「例えば水産担当の  
たからだ。 場合、魚を二枚におろせ  
るか、切り身をきれいに  
月にフレスタに入社し、 盛りつけられるかなどを  
研修後に安佐南区の店舗 評価の基準にした。反発  
に配属された。最初の3 もあったが、より公平な  
カ月は、ひたすら魚を包 評価につながったと思  
丁でさばいた。約3年間 う」と話す。

で3店舗を経験し、本社 人事畑が長くなり、「社  
の人事総務部へ。「目 外の出来事をもっと知り

### フレスタ・植野さん スーパーにキッチン



HBMSのビジネスプランで、家事労働の負担を軽減する  
方策を提言した植野文詞さん 〓西区のフレスタ本社で

たい」と思うようになった。学  
校することを知った。学  
ていた。そんなとき、県  
費の半分を会社が負担し  
立広島大にHBMSが開  
てくれる制度は、同僚に

1期生がいたため、次の  
年を目指した。当時、長  
女は2歳半。妻に相談す  
ると、最初は反対された  
が、家族の理解なしには  
困難だ。  
「幼い頃の夢は、社長  
になることだった。『ま  
いと将来に生かせる』と  
言い続け、最後は妻が折  
れた」  
平日の授業を基本にし  
ていたが、午後6時半か  
らの授業はつらかった。  
2年目にビジネスプラン  
に取りかかり、今年2月  
に発表した「『エディブ  
ルキッチン』サービス」  
は、地元スーパーから発  
信する「家事労働の負担  
感を軽減するビジネス構  
築」だった。妻の負担を  
少しでも減らしたい、最  
後はそこに行きついた。  
仕事を終えて帰宅し、  
家族の食事を用意するの  
はひと苦労だ。ならばス  
ーパーで調理を済ませ、  
それを家に持ち帰ること

はできないか。「多くの  
お母さんたちが一緒に作  
れるプロ仕様のキッチン  
をスーパーに用意し、一  
度に作れるスペースを確  
保する。『料理は楽しい  
けれど、後片付けはつら  
い』と思う人にもきっと  
受け入れてもらえる」。  
担当ゼミ教官の吉川成美  
准教授は「海外でもスー  
パーの役割は大きく変  
化している。家事の困り  
事、主婦の本音から発  
想したバーデン(負担)  
シェアの仕組みを構築し  
た」と高く評価した。  
今年4月、所属が人事  
総務部から販売部店舗支  
援チームに変わった。「私  
たち小売業界は今も『薄  
利多売』のイメージがあ  
る。広島から新しい事業  
を構築していくことで、  
業界のイメージを変えた  
い」。2年間の学びの成  
果を試す時が来た。  
【元田 慎】  
〓つづく